

2017年1月24日

【コード：3918】

PCIホールディングス株式会社

<会社説明会>



ご出席の皆様へ

本日は、ご多忙の中、当会社説明会へお運びいただき、誠にありがとうございます。

当社は、2015年8月にマザーズ市場へ上場し、**2016年9月に東京証券取引所市場第一部へ市場変更**致しました。これまで順調な業績を収めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。

当社は、**情報サービス事業を営む4社を傘下に持つ純粋持株会社**であり、グループとして、ソフトウェア開発事業をコアに事業展開しております。特に、**参入障壁が高いとされる自動車産業向け組み込み系（エンベデッド）分野**に強みを持ち、**車載器関連で発展**を遂げてきたことが特徴です。

2016年9月期は、**通信制御技術分野の研究開発に経営資源を積極投入**致しました。お陰様を持ちまして、「**V-Lowマルチメディア放送『i-dio』**」の放送開始（昨年7月、本放送開始）、神戸市「**市バスを情報通信基地とする実証実験**」への実証事業主体としての参画（昨年4月、サービス開始）、総務省主催「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」への構成員としての参画（昨年6月、中間とりまとめ公表）が実現致しました。これらは、当社グループの「**確かな技術力**」に**一定のご評価が頂けた結果**と真摯に受け止めております。

当社グループは、これからも「**確かな技術力**」に磨きをかけ「**安心・安全・豊かな社会**」を実現すべく皆様からのご期待にお応えできる企業体を目指します。「**自動運転**」、「**デジタルサイネージ**」、「**フィンテック**」、「**AR／VR**」、「**AI**」、「**ロボット**」等をキーワードに**I o T／I o E分野**の成長戦略を、『**Potential Up of Venture**』を旗印に**M&Aや協業**を通じてグループの拡大戦略を推し進めて参ります。

引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

PCIホールディングス株式会社
代表取締役社長



1. P C I グループとは . . .
 - ① 会社概要
 - ② 事業内容
2. P C I グループの強み
3. P C I グループの成長性
4. P C I グループの業績状況
5. P C I グループの株主還元

1. PCIグループとは・・・

① 会社概要



企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
 そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

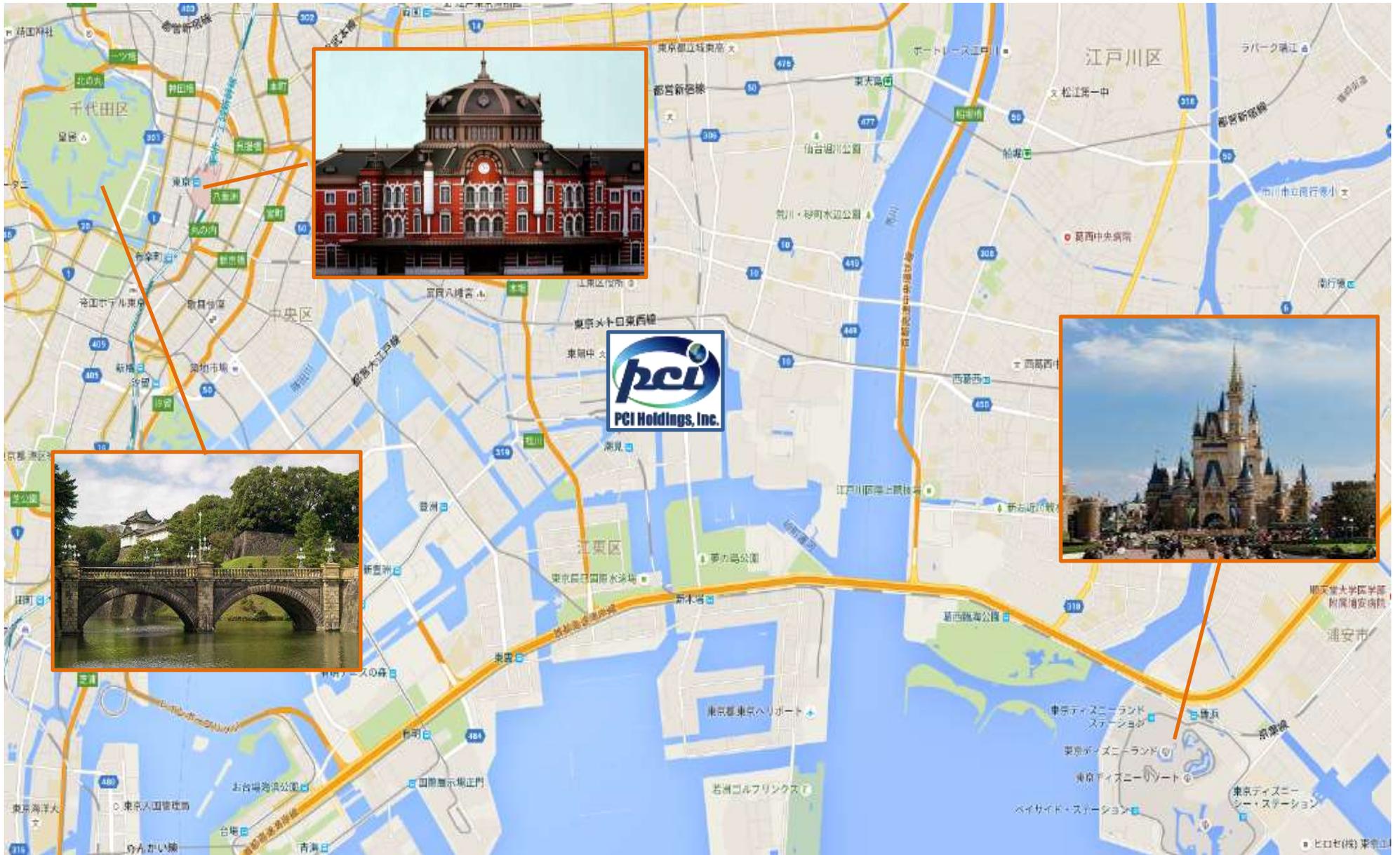
- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（P）に変化（C）を求め、革新（I）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

基本情報

(注) P : Positively C : Change I : Innovate

商号	PCI ホールディングス株式会社 (PCI Holdings, Inc.)	資本金	10億3,741万円 (2016年9月現在)
所在地	〒136-0076 東京都江東区南砂2-1-12	連結売上高	85億459万円 (2016年9月期)
代表者	代表取締役社長 天野豊美	連結経常利益	5億9,194万円 (2016年9月期)
設立	2005年4月	連結子会社	PCIソリューションズ株式会社 PCI アイオス株式会社 Inspiration株式会社 株式会社シスウェーブ (2016年11月～)
従業員数 (連結)	1,058名 (2016年12月末)		

1. PCIグループとは・・・① 会社概要 ～ 所在地



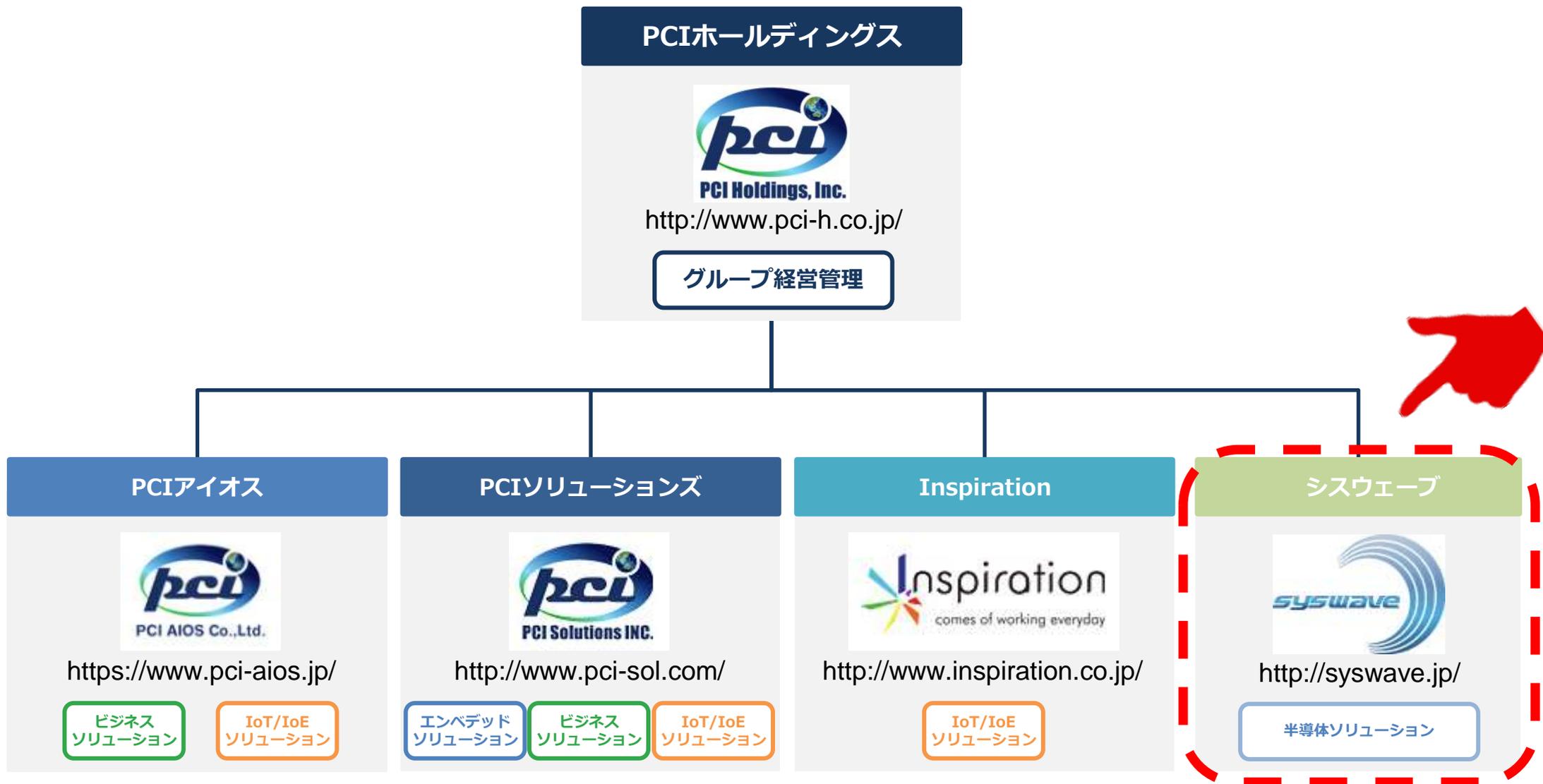
1. PCIグループとは・・・① 会社概要 ～ グループ運営体制



PCIホールディングス株式会社がグループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます



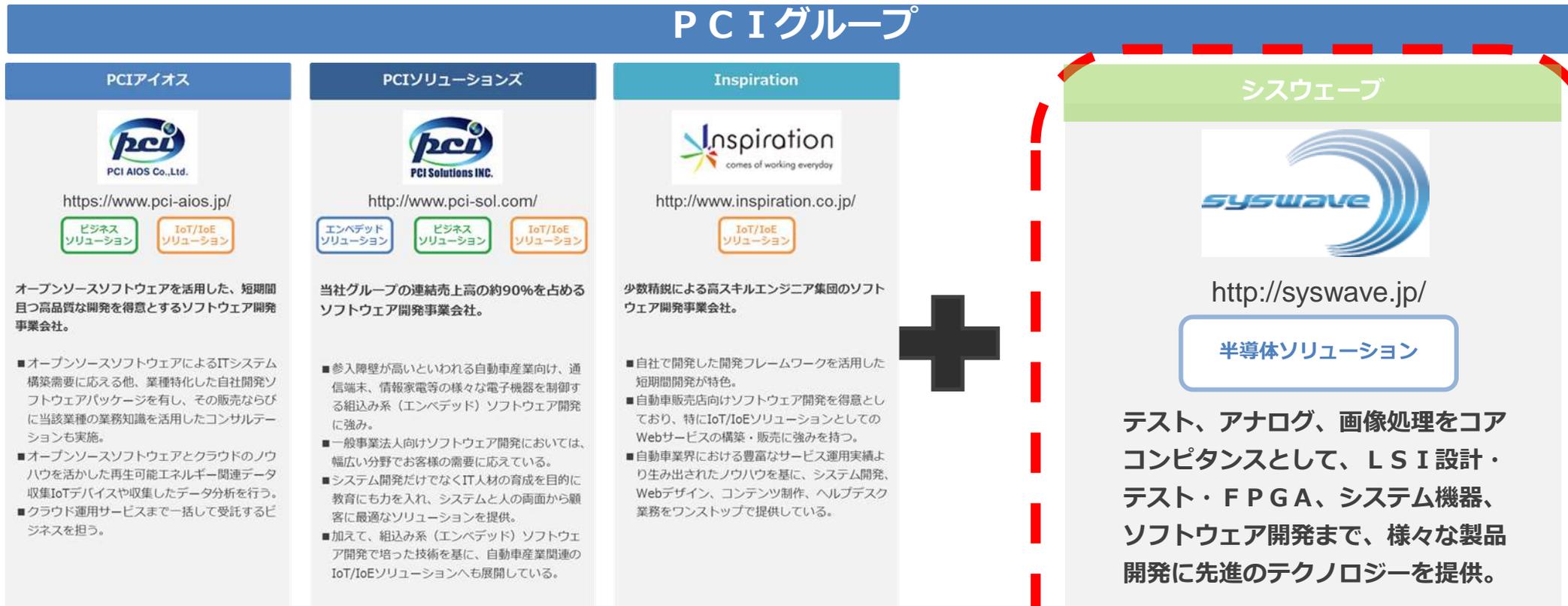
2016年11月30日 株式会社シスウェーブを子会社化



1. PCIグループとは…① 会社概要 ～ グループシナジー



PCIグループ



PCIグループの
エンベデッド&IoT/IoE技術

「車載」分野での
シナジー効果！

シスウェーブ社の
高度な半導体技術

<起業までの道のり>

- ・ 1975年 日本エヌ・シー・アール（現日本N C R(株)、東証1部上場企業）入社
- ・ 1996年 同社常務取締役就任
- ・ 2005年 同社役員を退任後、株式会社M & S（現当社）を起業
I Tサービス関連事業を開始

<上場を成し遂げた二つの想い>

日本のI Tサービス業界における**従来の構造に風穴を空けたい**という想い
日本N C R(株)役員時に経験した上場廃止の経験から、**もう一度上場したい**という想い

<上場までの道程>

最初は**リーマン・ショックの前**。上場準備を行うも市場環境から延期を決断
次が、**東日本大震災の前**。この時は経常損失を計上。再度延期を決断
それでも何とか立ち直り、諦めることなく。。。

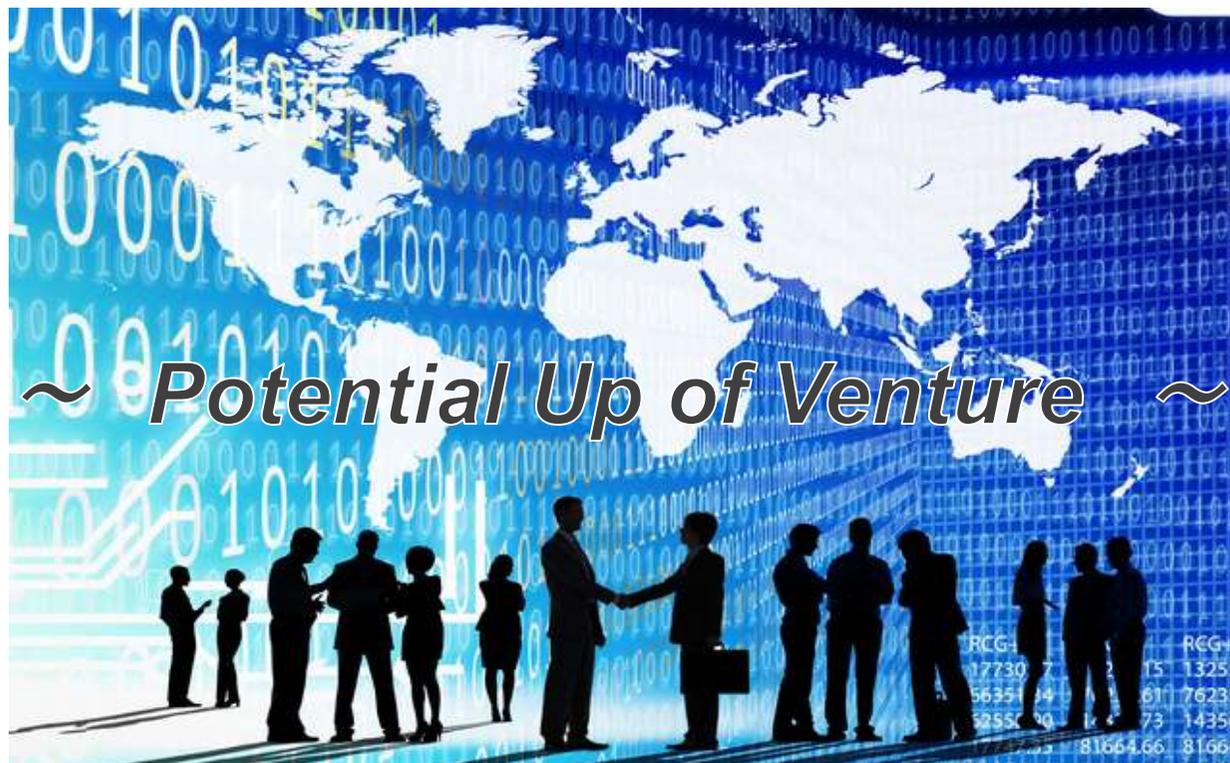
2015年8月に東京証券取引所マザーズ市場へ上場

そして**2016年9月に東京証券取引所市場1部へ市場変更**



1. PCIグループとは・・・

② 事業内容



何をしている会社？

- ⇒ ソフトウェア開発を主力とした情報サービス事業
(お客様の要求に基づく受託ソフトウェア開発事業)

お客様は？

- ⇒ 主に B to B / 取引先 (約300社) の多くは上場企業
及びその関連会社

開発したソフトウェアはどこで使われているの？

- ⇒ 自動車、建機重機、モバイル端末、デジカメ、専用機器 等
- ⇒ 一般事業法人や金融機関の業務システム 等
- ⇒ 車載器、スマホ、太陽光発電モニタリングシステム 等

1. PCIグループとは・・・② 事業内容 ～ 4つの事業領域

エンベデッドソリューション事業



ビジネスソリューション事業



IoT/IoEソリューション事業



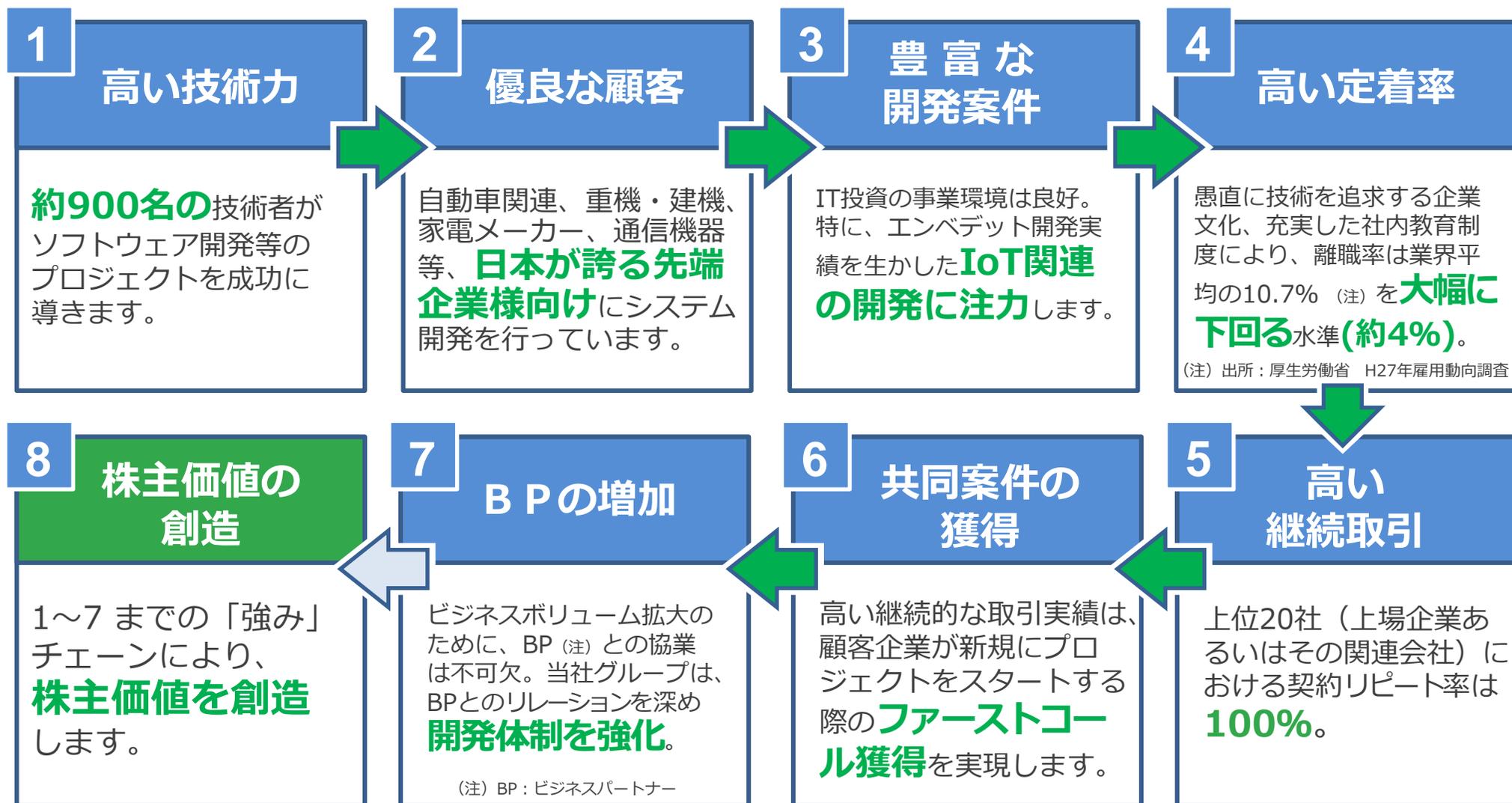
半導体ソリューション事業



2. PCIグループの強み



2. PCIグループの強み ～ 株主価値創造プロセス（強みのチェーン）



（注）各データは、2016年9月期末時点のもの

3. PCIグループの成長性



1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、
キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya (デジタルサイネージ、FinTech)
- PASERI

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X (車車間通信、神戸市バスプロジェクト)

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。
アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル

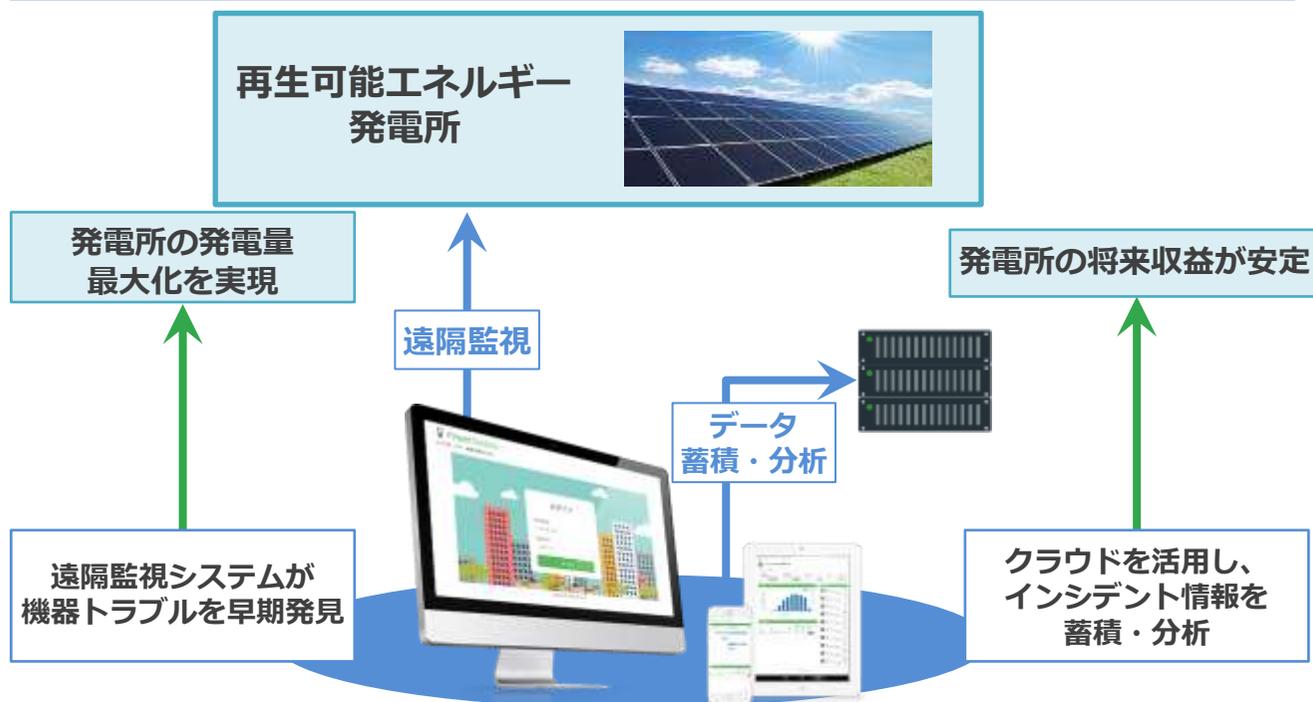
再生可能エネルギー「Power Station」

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- 当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- 大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- 再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注見通し

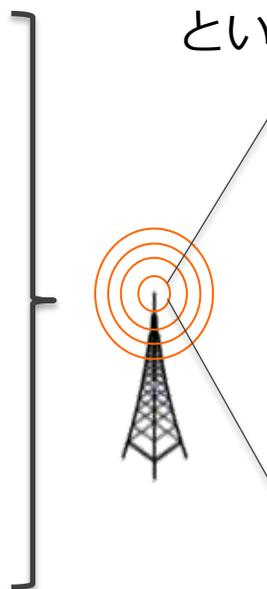
- 2015年9月 2拠点（実績）
- **2016年9月 4拠点目受注（実績）**
- ~2018年各期 3~5拠点（見通し）

V-Lowマルチメディア放送による新しいサービス

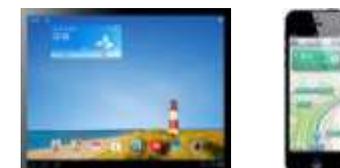
- ☆ 3月1日 **プレ放送**開始（福岡・東京・大阪）
- ☆ 4月18日 アマネク社が九州地方へ向けた**通行実績情報の提供**を開始
- ☆ 7月1日 **本放送**開始、東海（**愛知県**、三重県）・北陸地区、静岡へもエリア拡大

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で**一斉同時配信**を行う。



カーナビ・カーオーディオ



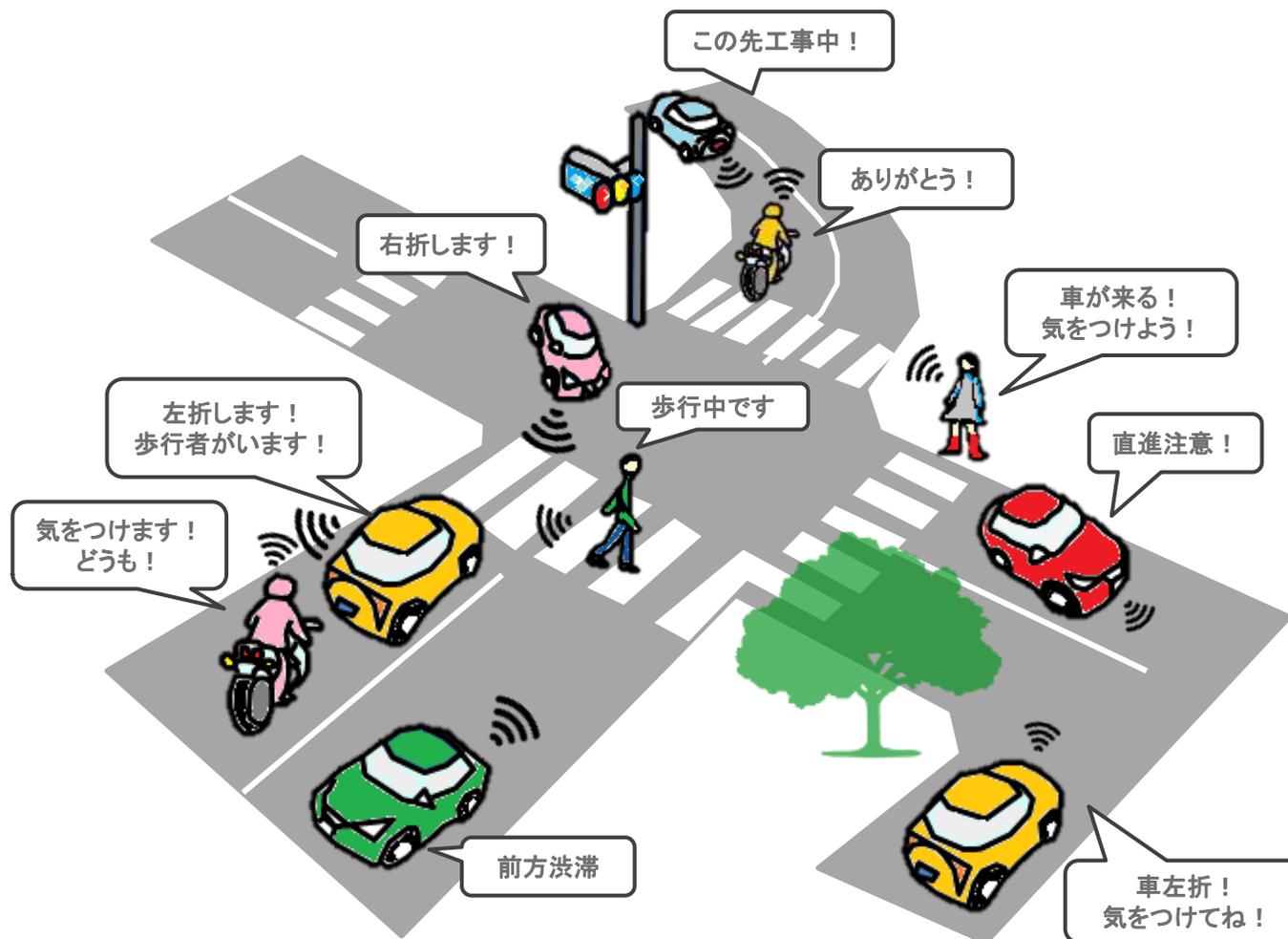
スマホ・タブレット



屋外サイネージ

V 2 X (Vehicle to X) : 車車間通信

V 2 Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV 2 Xを実用化する為の**V 2 Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 35企業・団体 4自治体 2016年3月15日時点) を通じてV 2 Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



2016年2月23日

「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」が開始

- ☆ 2015年12月22日 バスロケーションシステム**実証実験**について**記者発表**
- ☆ 2016年2月23日 **実証実験開始**
- ☆ 2016年4月18日 **第一段階の結果**及び**第二段階の実証実験発表**
- ☆ 2016年7月15日 神戸市交通局より

「バスロケーションシステムの**実証実験結果の報告**について」 **報告**

PCIソリューションズが「**実証事業主体**」として参画

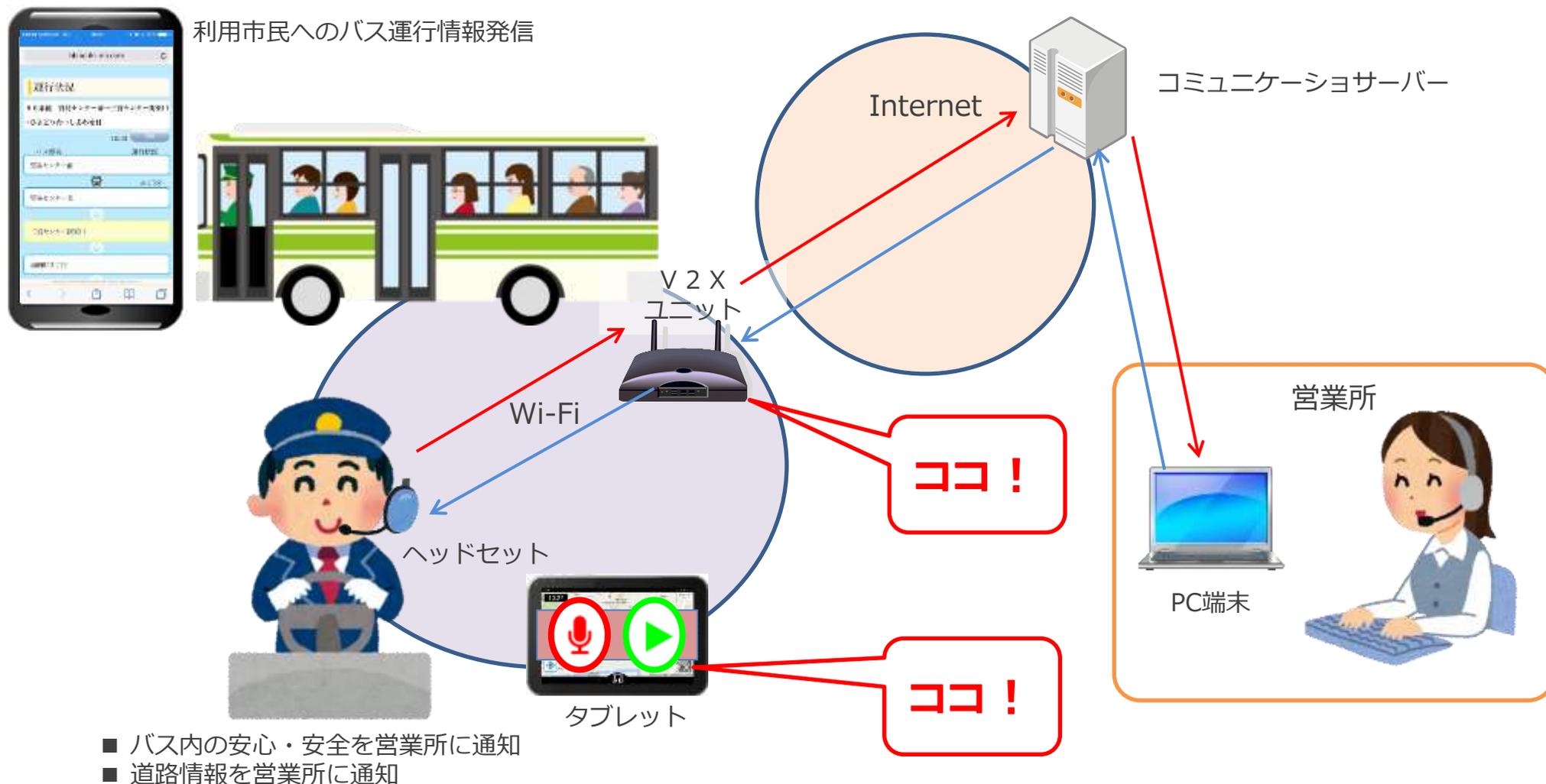
☆実証事業主体

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**

☆今後の展開

- ・PCIソリューションズは、「**V2Xユニット**」を活用した**ソフトウェア開発**に携わる「**実証事業主体**」として参画
- ・**第一段階**の「リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化（政令市初）**」及び、**第二段階**の「市バス車両に**デジタルサイネージ・車外カメラ**を設置した更なる情報発信」を実証

神戸市バスにおける「V2X」ユニットの運用・利用イメージ (安心・安全・豊かな社会)



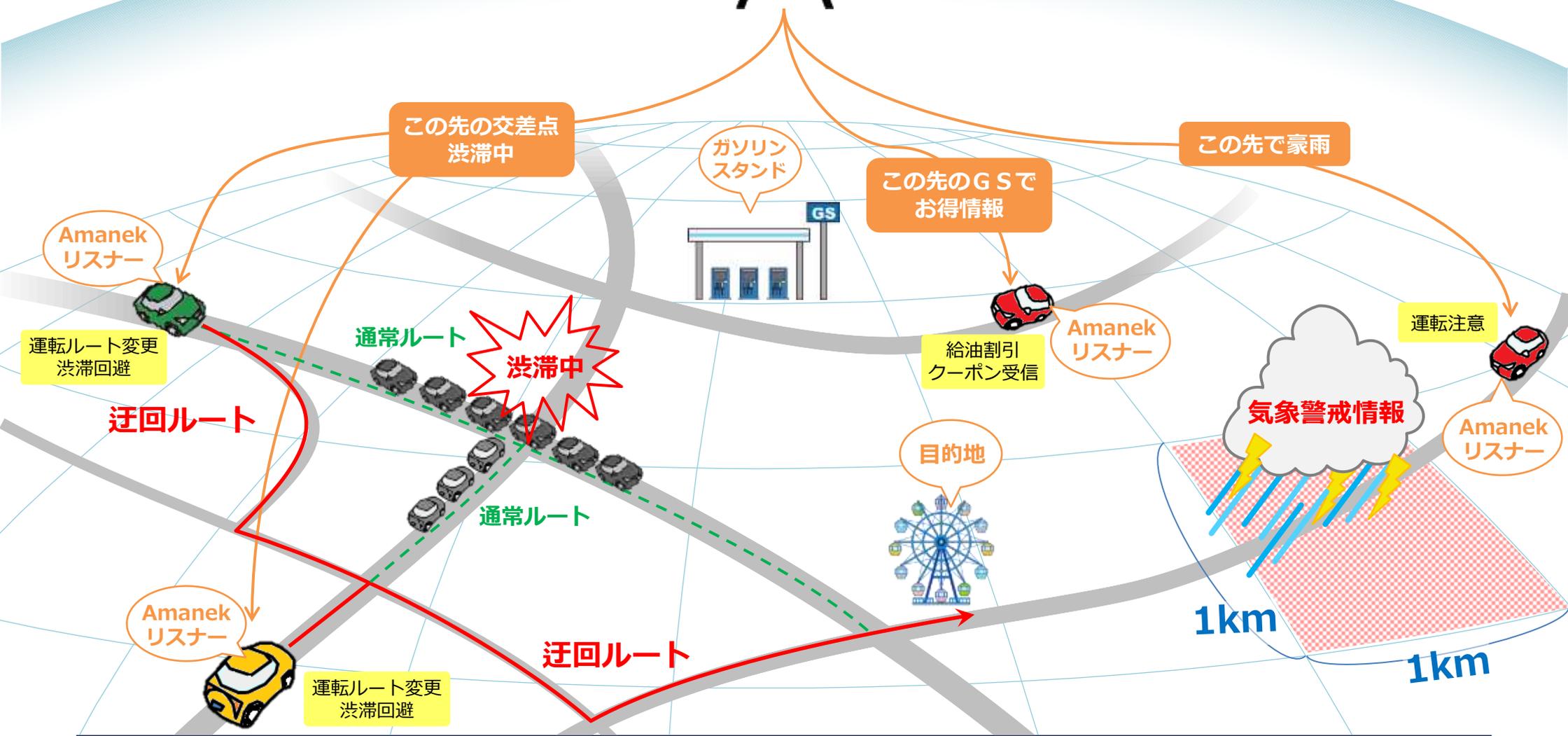
Amanekチャンネルが提供するサービスのイメージ



Amanekスタジオより
ドライバーに**15分後**の
交通情報やドライブ情報を提供。



- ①V-Lowマルチメディア放送は、輻輳がない。
- ②ユーザーのGPS情報から**1kmメッシュ**での最適な運転情報を提供。



「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

- ☆ 2016年1月20日 **研究会開催**の報道発表
- ☆ 2016年1月26日から開催され、同年6月29日に「**中間取りまとめ**」が公表された

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」を開催。

☆ **主な検討事項**

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケース**と、**その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆研究会構成員

(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授 高田 潤一

東京大学 生産技術研究所教授 大口 敬

(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
ディペンダブルワイヤレス研究室長 三浦 龍

(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー 大西 亮吉

本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部
グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師 大石 康夫

(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部
サービスイノベーション部 担当課長 堀口 賞一

ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部
プロダクト企画3課 課長 松本 善徳

(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当 田中 英明

日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長 渡邊 敏博

沖電気工業(株)社会システム事業本部
交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長 浜口 雅春

PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長 清宮 幸夫

(順不同、敬称略)

総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」に構成員として参画



出典：総務省HP (http://www.soumu.go.jp/main_content/000426714.pdf)

ヒトとあらゆるモノを結びつける
IoT時代に最適な
コミュニケーションツール

A-ya



特徴

- BLE技術を使い、低消費電力で稼働します。
- 双方向通信を実現。
- 出力調整により有効通信範囲を可変できます。
- ビッグデータの収集ポイントとして活用可能。
- ヒト側、モノ側それぞれにSDKを準備。
- 最少開発期間で既存システムに組み込み可能です。



いまや多くの人が持つスマートフォンをヒト側のインターフェイスとして位置付け、身の回りにある様々な機器と能動的にコミュニケーションをとることで、便利で快適な日常を創りだすことを目的に開発されたのが、『A-ya』です。

活用事例



①通常時
サインボードにあらかじめ保存されているコンテンツを順次表示



②オーディエンス接近時
A-yaアプリをインストールしたスマートフォンなどの端末が接近すると、興味リストに応じて、サインボードへの表示内容を変更。



④ボタンをポン
気になる情報はA-yaボタンで。URLをスマートフォンに送信

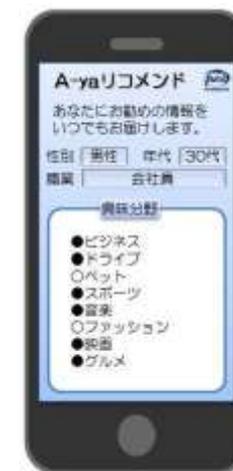


⑤情報表示
URLタップで、目的の情報ページ(ランディングページ)を表示



③スマホPush
サインボードに興味ある情報が表示されていることを、スマートフォンにPush通知

初期設定画面例



※画面は一例です。デザインや興味分野はカスタマイズ可能です。

2015年12月9日

株式会社TCSI との協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社TCSI（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。TCSI社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「PASERI（パセリ）」（以下、PASERI）を開発しております。

TCSI社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてPASERIの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。



4. PCIグループの業績状況



(1) 2016年9月期 決算業績サマリー



売上高	8,504百万円 (前期比+8.3%)	当社グループの開発実績を背景に、 3事業とも既存・新規案件の引き合い増加 が続く。
売上総利益	1,981百万円 (前期比+12.4%)	高採算のIoT/IoE事業貢献等により、 売上高総利益率は23.3%と前期比0.9ポイント上昇 。
経常利益	591百万円 (前期比+8.6%)	好調な事業環境による売上総利益の増加により 研究開発費及び市場変更関連費用を吸収 し利益率を維持。
親会社株主に帰属する 当期純利益	403百万円 (前期比+21.8%)	法人税等の負担率 が予想値を下回ったこと、連結子会社の事業拡大に伴う オフィス増床関連費用 が来期以降にずれ込んだこと等により 押し上げ 。

(百万円)	16年9月期 (実績値)	対前期比	対計画比	15年9月期 (前期実績値)	16年9月期 (計画値)
売上高	8,504	+651 (+8.3%)	+54 (+0.6%)	7,853	8,450
売上総利益	1,981	+218 (+12.4%)	+72 (+3.8%)	1,762	1,909
(売上総利益率)	23.3%	+0.9pt	+0.7pt	22.4%	22.6%
営業利益	590	+43 (+7.9%)	+10 (+1.7%)	547	580
(営業利益率)	6.9%	▲0.0pt	+0.1pt	7.0%	6.9%
経常利益	591	+47 (+8.6%)	+11 (+2.1%)	544	580
(経常利益率)	7.0%	+0.0pt	+0.1pt	6.9%	6.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	403	+73 (+21.8%)	+43 (+12.0%)	330	360
(当期純利益率)	4.7%	+0.5pt	+0.5pt	4.2%	4.3%

【1株当たりデータ】

D P S (円)	50	±0 (±0.0%)	+10(+25%)	50	40
E P S (円)	118.79	+1.24 (+1.1%)	+11.98(+11.2%)	117.55	106.81

【財務データ】

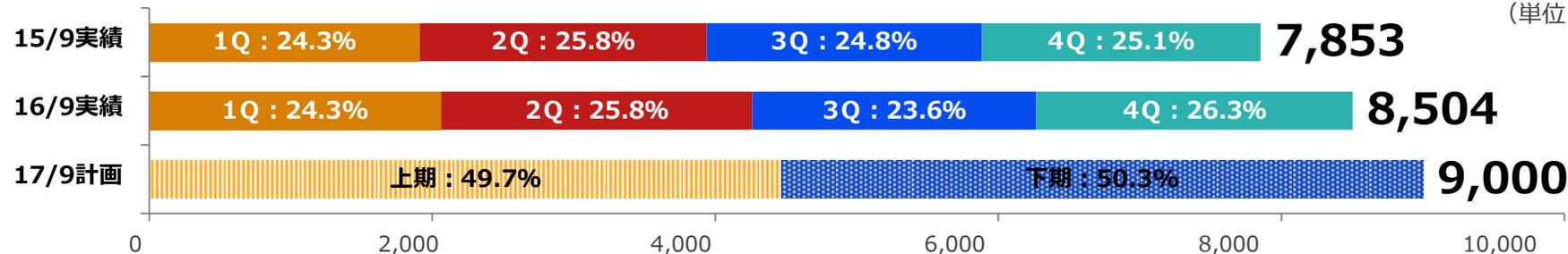
R O E (%)	15.3%	▲4.4pt	-	19.7%	-
自己資本比率 (%)	72.1%	7.8pt	-	64.3%	-

(2) 業績推移 (サマリー)

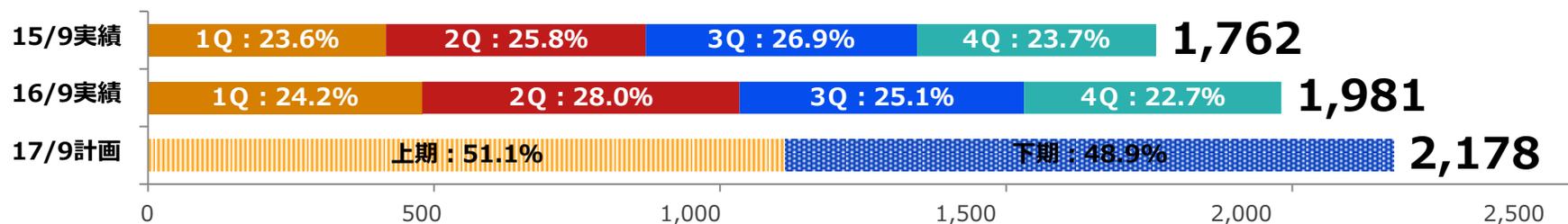


(単位：百万円)

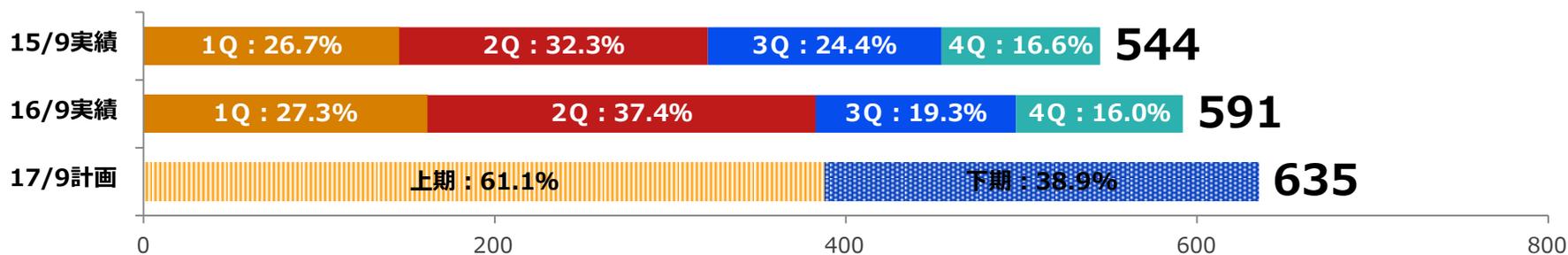
売上高



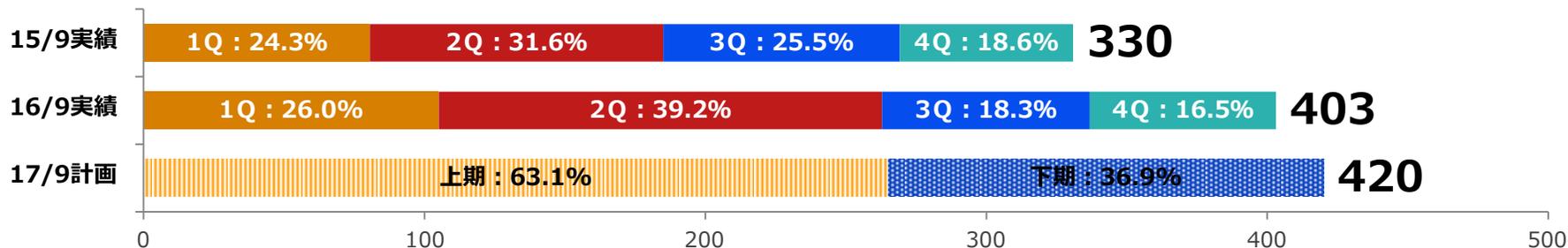
売上総利益



経常利益



当期純利益



(3) 2016年9月期 事業別の売上高・売上総利益実績



エンベデッドソリューション事業 ～新規顧客からの引合いが増加～

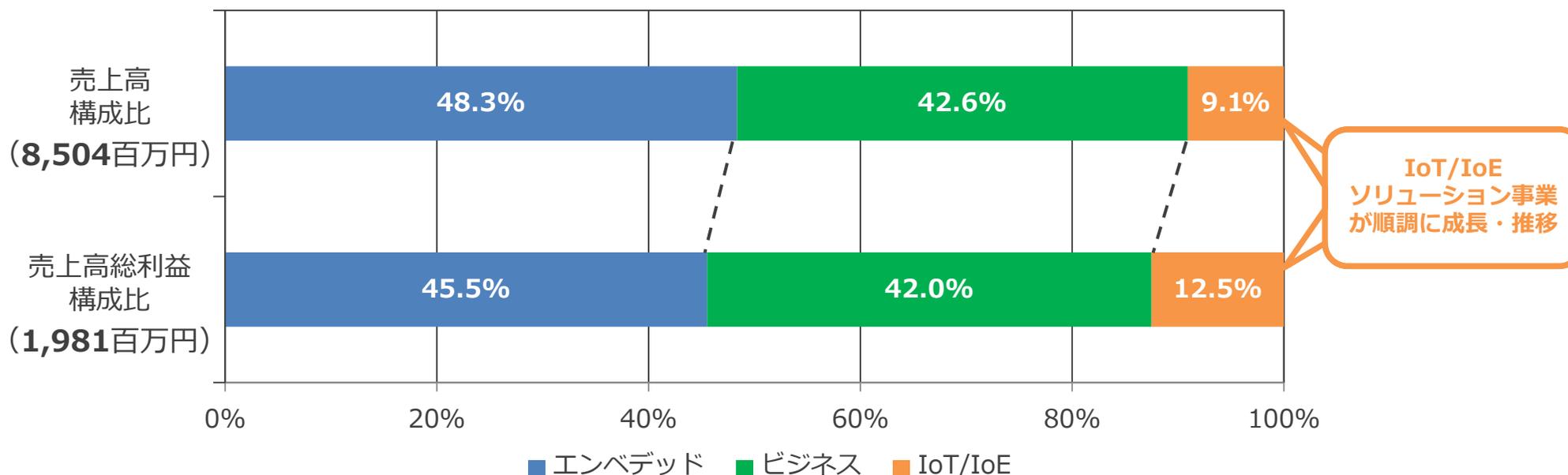
- グループのエンジニアリング力を活かした開発実績を背景に、先進技術を用いた**安全運転支援システム**を搭載したスマートカー開発等の需要が拡大。
- 得意とする車載関連、重機・建機等の自動車産業向け組込み系ソフトウェア開発では、既存顧客からの**カーナビゲーション開発・チップセット開発案件**を計画的に受注。
- **車載系ECUモデルベース**や**AUTOSAR**（車載ソフトウェアプラットフォームの仕様名称）開発案件の受注が引き続き拡大。

ビジネスソリューション事業 ～BP強化で事業規模が拡大～

- 大手SIer（システムの企画、構築、運用サポートを全て請け負う業者のこと）を通じた**金融機関**向け案件及び流通系案件の受注が堅調に推移。
- SI、システム運用・保守サービス分野では、**基幹系サブシステム開発**案件を多数受注。
- POS関連機器販売においては、**大口顧客の全国的な店舗展開**が寄与し、好調に推移。

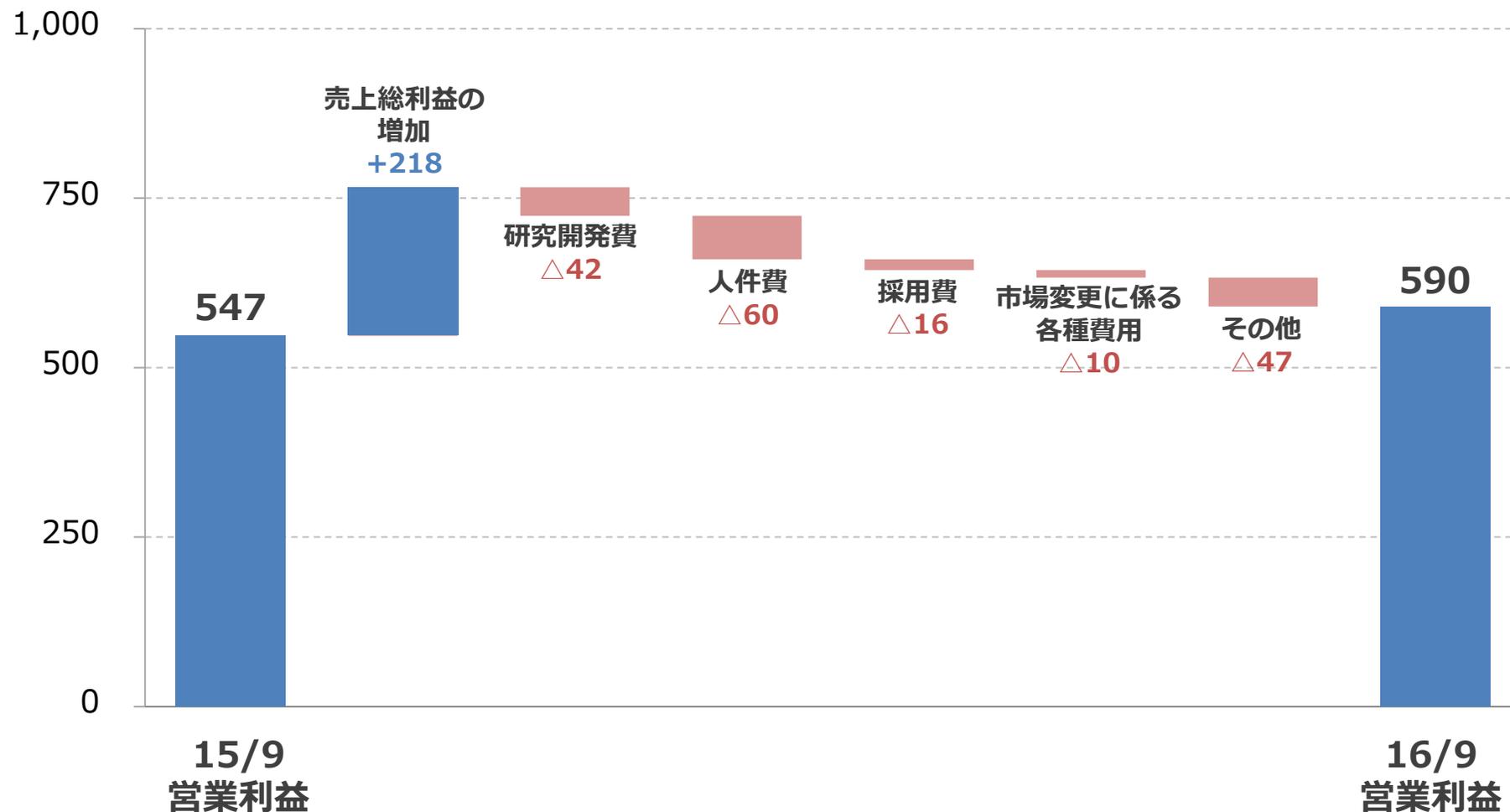
IoT / IoE ソリューション事業 ～自動車向けを中心に好調に推移～

- 平成28年3月より放送が開始された「V-Lowマルチメディア放送『i-dio』」は、放送地域拡大に向けたソフトウェア開発が堅調に推移。
- 自動車販売店向けソリューションにおいては、既存サービスの**機能改修及び保守業務**に加え、既存顧客からの**大型システム改修案件**が売上高に寄与。
- エネルギー業界向け分野においては、発電所事業支援サービスの計画的な受注に加え、遠隔監視モニタリングシステムを活用した**O&Mサービス**の導入促進に注力し、**4拠点目**を受注。



(4) 2016年9月期 営業利益の変動要因

(単位：百万円)



(5) 2016年9月期 貸借対照表、CFのポイント



資産： 現預金等が増加。
 負債： 有利子負債を全額返済し無借金経営を実現。
 資本： 株式上場効果で自己資本比率が72.1% (+7.8pt) に上昇。

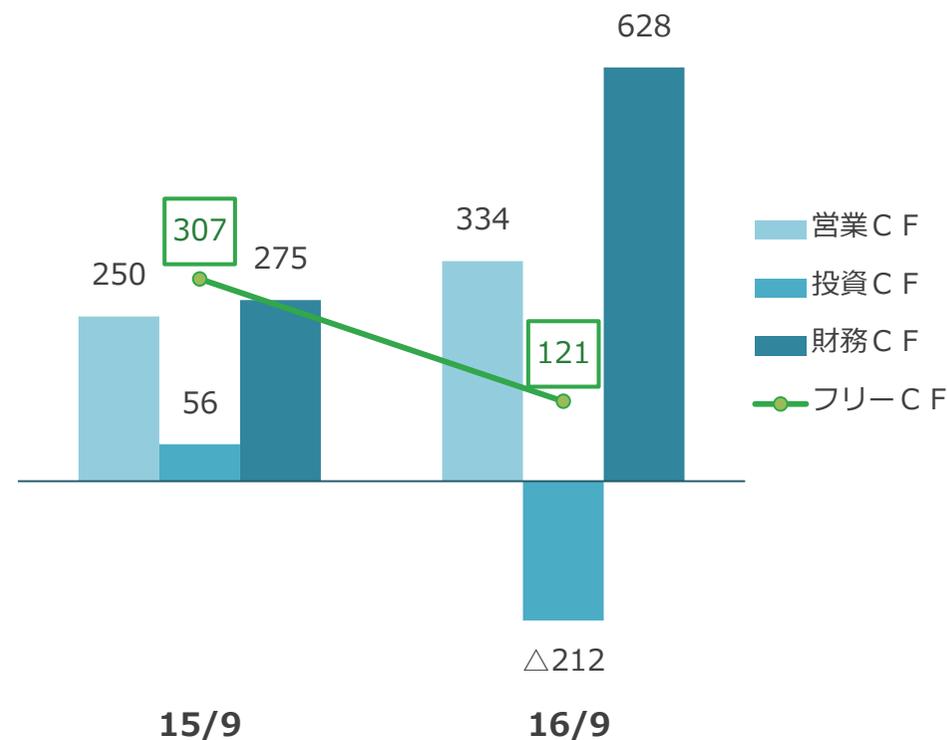
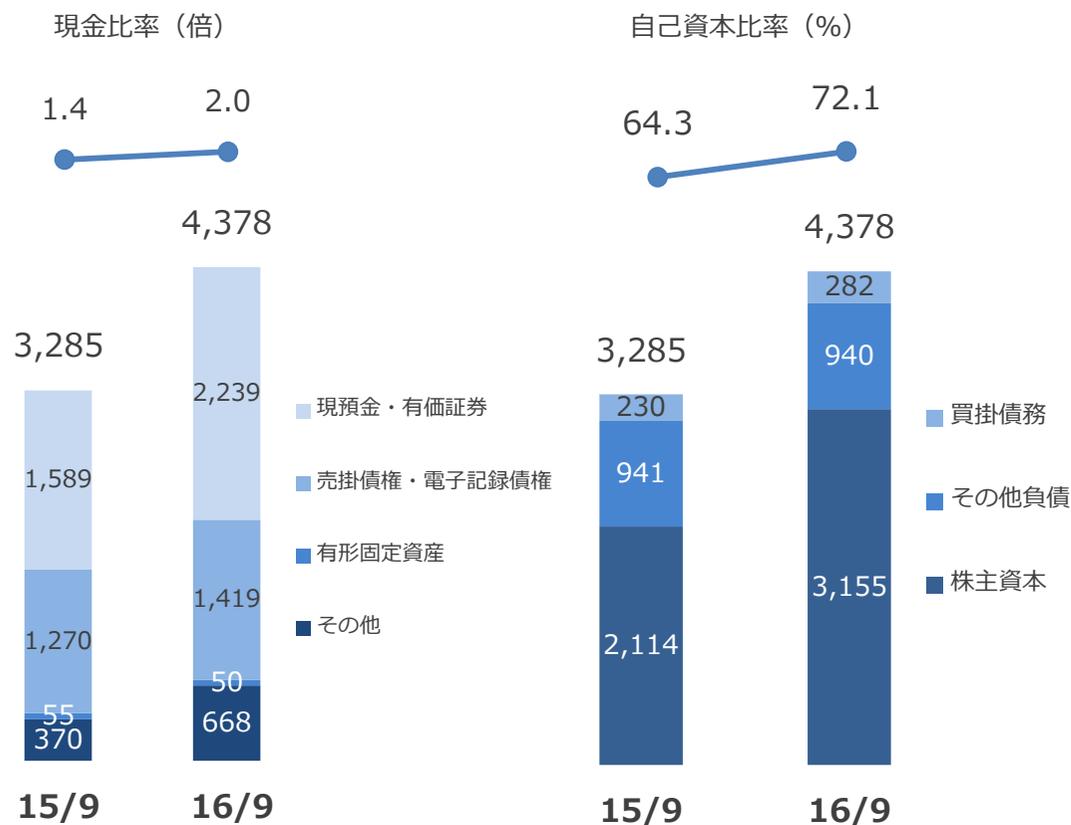
営業CF： 売上増加による税前利益、売上債権の増加。
 投資CF： 投資有価証券の取得。
 財務CF： 配当金の支払額を新株の発行による収入が吸収し、増加。

貸借対照表

(単位：百万円)

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



(注) 現金比率 = 現預金・有価証券 / 流動負債

(注) フリーCF = 営業CF + 投資CF

(6) 2017年9月期 計画サマリー



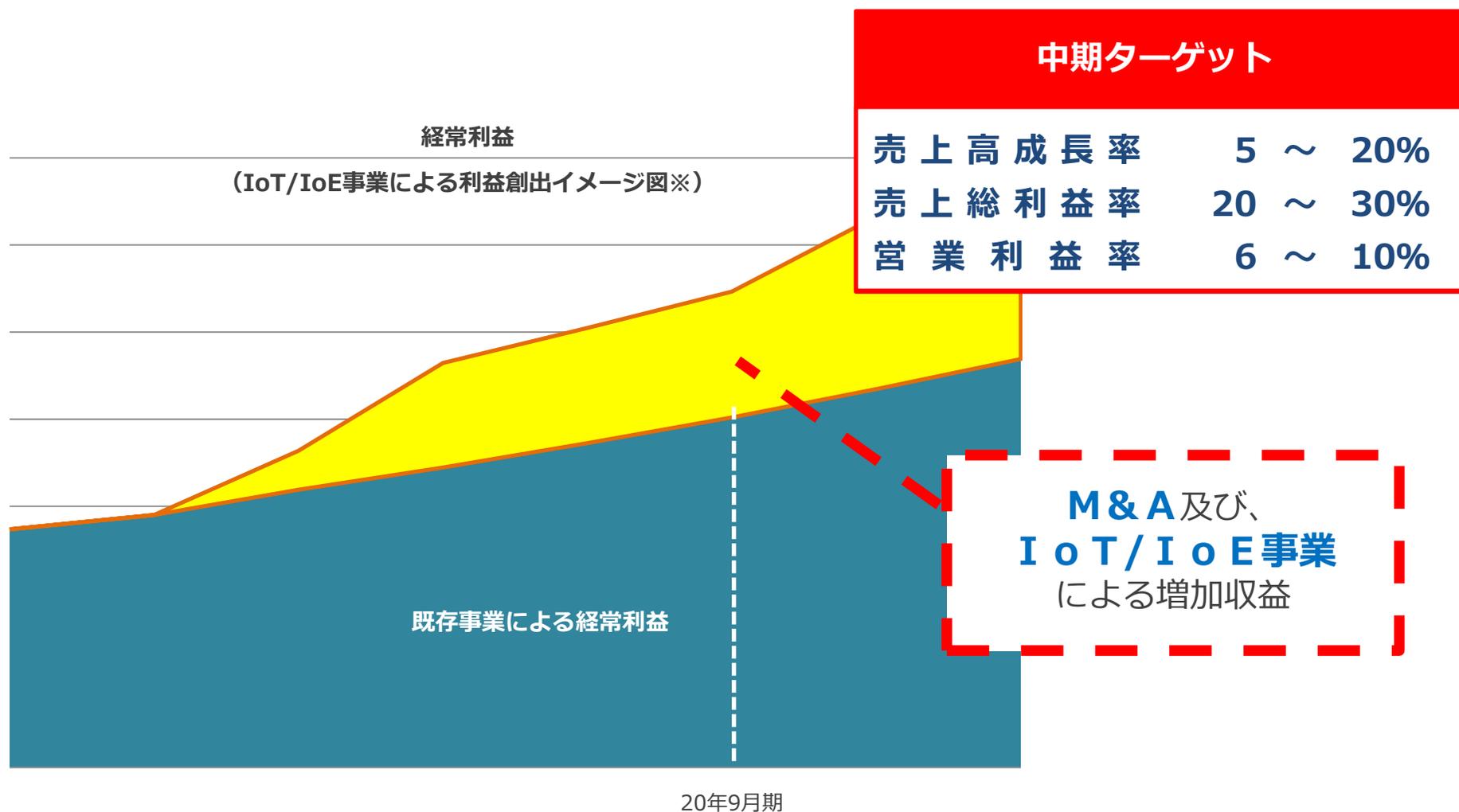
(百万円)	17年9月期 (計画)						16年9月期 (実績)
	上期	対前期比	下期	対前期比	通期	対前期比	
売上高	4,470	+207(+4.9%)	4,530	+287(+6.8%)	9,000	+495(+5.8%)	8,504
売上総利益	1,114	+80(+7.7%)	1,064	+116(+12.3%)	2,178	+196(+9.9%)	1,981
(売上総利益率)	24.9%	+0.6pt	23.5%	+1.2pt	24.2%	+0.9pt	23.3%
営業利益	388	+15(+4.1%)	242	+24(+11.3%)	630	+39(+6.8%)	590
(営業利益率)	8.7%	±0.0pt	5.3%	+0.2pt	7.0%	+0.1pt	6.9%
経常利益	388	+5(+1.3%)	247	+37(+18.1%)	635	+43(+7.3%)	591
(経常利益率)	8.7%	▲0.3pt	5.5%	+0.6pt	7.1%	+0.1pt	7.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	265	+2(+0.8%)	155	+14(+10.6%)	420	+16(+4.2%)	403
(当期純利益率)	5.9%	▲0.3pt	3.4%	+0.1pt	4.7%	±0.0pt	4.7%
DPS (円)	-	-	-	-	50円	±0(±0.0%)	50円
配当性向 (%)	-	-	-	-	44.7%	+2.6pt	42.1%
EPS (円)	70.59円	▲7.48 (▲9.6%)	41.29円	+0.29 (+0.7%)	111.89円	▲6.90(▲5.8%)	118.79円

(注) 上記計画は、株式会社シスウェブの子会社化による影響を含んでおりません。
当社連結業績に与える影響等につきましては、現在精査中であり、業績予想修正の必要性及び公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

5. PCIグループの株主還元



(1) 2016年9月期実績に基づく収益構造と中期ターゲット



※ IoT/IOE事業による利益創出イメージ図は、現在織り込んでいないM&A、V2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送、デジタルサイネージ等の新しい取り組みによる収益を反映させた予想値をグラフ表示しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、当社計画値を表すものではありません。

(2) 株主還元について



株主還元方針

安定した配当を維持継続し、業績に裏付けられた更なる配当水準の向上
[連結配当性向：30%～50%を目安とする]

配当推移

	2013年9月期 (実績) (未上場時)	2014年9月期 (実績) (未上場時)	2015年9月期 (実績)	2016年9月期 (実績)	2017年9月期 (予想)
年間配当金	32.5円	35円	40円 (普通配：35円) (記念配：5円)	50円 (普通配：40円) (記念配：10円)	50円 (普通配：50円)

(注) 平成27年3月23日付で普通株式1株につき100株、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

(3) まとめ

私の思い

- ・2017年9月期の当社「Motto」
『**全社員が一部上場会社企業の社員としての自覚とプライドを持ち、一部上場企業としての品格とビジネスを追求し、エクセレントカンパニーの基盤を作る。**』
- ・ステークホルダーの皆様とともに、当社グループの『**持続的な成長**』と『**中長期的な企業価値の向上**』を図ってまいります。
- ・初心を忘れず、同じ価値観を共有できる『**真に実力のある**』会社と一緒に拡大・成長を図ります。
- ・誠実に、正しく、愚直に事業に取り組み、『**安全・安心・豊かな社会**』に当社グループの技術力が少しでも貢献できるよう努力してまいります。

事業のキーワード

- エンベデッド（組込み系システム開発）**
 - ・自動車、家電製品等には様々なソフトウェアが組み込まれております。
- V-Lowマルチメディア放送**
 - ・2016年3月1日より放送が始まりました。
- V2X（車車間通信）**
 - ・今後、様々な場面での活用が期待されております。（神戸市バス）

これらのキーワードを
目にしたら、耳にしたら



「P C I」

を思い出してください。

<参考資料集>



(1) 連結損益計算書



(百万円)	2015年9月期			2016年9月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,938	3,914	7,853	4,262	4,242	8,504
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	2,000	2,110	4,111
ビジネスソリューション事業	-	-	-	1,834	1,785	3,619
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	427	346	773
売上原価	3,068	3,022	6,090	3,228	3,295	6,523
売上総利益	869	892	1,762	1,033	947	1,981
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	463	438	901
ビジネスソリューション事業	-	-	-	426	405	831
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	143	103	247
販管費	554	660	1,215	661	729	1,391
営業利益	315	231	547	372	217	590
営業外収益	8	2	11	12	4	16
営業外費用	2	11	13	2	12	15
経常利益	321	223	544	382	209	591
税金等調整前当期純利益	320	192	512	382	209	591
法人税等	135	46	181	119	68	188
親会社株主に帰属する当期純利益	184	145	330	262	140	403

※2016年9月期より売上区分をサービス提供形態から技術特性分類へ区分変更を行ったため、前期売上・売上総利益実績の内訳は掲載しておりません。

(2) 連結貸借対照表



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期			
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204	3,898
現預金	819	700	790	1,489	1,127	1,005	1,571	2,239
売上債権	1,361	1,446	1,305	1,270	1,587	1,567	1,346	1,419
その他	238	304	262	327	248	291	286	238
固定資産	330	323	330	198	310	470	476	480
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258	1,119
仕入債務	338	211	198	230	438	303	284	282
その他	1,119	1,164	1,001	866	667	701	973	837
固定負債	61	65	70	74	77	82	99	103
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357	1,222
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322	3,155
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378

※2015年9月期第1四半期は、参考数値。

(3) 連結キャッシュ・フロー計算書



(百万円)	2015年9月期		2016年9月期	
	上期	通期	上期	通期
営業活動によるCF	△ 297	250	△ 160	334
税金等調整前当期純利益	320	512	382	591
減価償却費	17	32	16	34
のれん償却額	2	5	1	3
売上債権の増減額	△ 244	△ 68	△ 297	△ 149
たな卸資産の増減額	5	△ 1	2	1
仕入債務の増減額	45	64	73	51
その他	△ 445	△ 295	△ 340	△ 199
投資活動によるCF	△ 22	56	△ 195	△ 212
有形固定資産の取得	△ 8	△ 12	△ 0	△ 3
投資有価証券の取得	-	△ 10	△ 185	△ 185
その他	△ 13	79	△ 9	△ 23
財務活動によるCF	14	275	△ 128	628
長短借入金の純増減額	0	△ 250	-	-
株式発行による収入	-	636	5	773
配当金の支払額	△ 95	△ 95	△ 133	△ 133
その他	109	△ 14	△ 0	△ 11

<用語集>



(1) エンベデッドシステムとは

- ・エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
- ・身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
- ・このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

開発事例

カーナビ



- ・タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- ・アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- ・エンジン、エアコン等の制御機能
- ・センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ・ディスプレイ表示の仕組み
- ・アプリケーションの基盤
- ・データ通信機能
- ・電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- ・画面上のアイコン・ボタンメニュー等を操作する機能
- ・シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- ・画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

納品

発注

高い参入障壁

製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注



システム開発

詳細設計

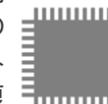
プログラミング

テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

IoT (Internet of Things)

コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック (FinTech, Financial Technology)

ファイナンスとテクノロジーをあわせた造語。ITを活用して金融、決済、財務サービスなどを生み出したり、見直したりする動きのこと。

AUTOSAR : (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップ

BP

ビジネスパートナー企業やその技術者。

V-Lowマルチメディア放送

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X (Vehicle to X)

自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やモノ (X) とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信

プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方向的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M (Operation & Maintenance)

運用・保守。

デジタルサイネージ (Digital Signage)

デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア (Open-Source Software)

ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室
E-mail ir@pci-h.co.jp

